

平成 26 年度市民図書館利用者懇談会実施報告

- 1 日 時 平成 27 年 2 月 4 日（水）13:30～15:00
- 2 会 場 せんだいメディアテーク 2 階 スタッフ会議室
- 3 参加者 市民図書館利用者 7 人
（個人利用者 3 人、小学校、児童館、ブックトークボランティア団体、地域文庫各 1 人）
市民図書館職員 5 人
- 4 配付資料 「仙台市図書館振興計画（概要版）」「仙台市図書館要覧 平成 26 年度」ほか

5 内 容

懇談会の趣旨説明（市民図書館長）

仙台市図書館振興計画の概要の説明と、計画に基づき市民アンケートや利用者懇談会を実施する中で、幅広く意向を把握し図書館サービス向上に活かしていく旨を説明した。

市民図書館事業概要説明（市民図書館副館長）

市民図書館の事業の概要を説明した。

懇談

出席者全員からご意見等をいただき、図書館から説明・回答を行った。

6 意見・要望等

地域文庫

- ・プレ幼稚園世代を対象に地域文庫活動を行っている。地域文庫活動に 20 年以上携わっており、この間、「文庫団体貸出」を利用してきた。
- ・地域文庫活動を行う上で図書館には助けられている。リクエストした本を回してもらえてありがたい。
- ・自分たちで自家用車を使って図書館から貸出を受けた図書資料を運んでいる。事故が心配である。移動図書館のようにマイクロバスが市内を網の目のように巡回し、そのついでに文庫にも運んでもらえるサービスがあると良い。
- ・図書館の現状の体制でより良いサービスを行おうとすると職員のオーバーワークになるのではないかと。人員体制を改善しない限り、個々のサービスも改善されないのではないかと。
- ・図書館の発行物やホームページは魅力が不足している。

個人利用者

- ・小学校で読み聞かせを主体とした活動をしている関係で、昨年度から図書館で「子ども読書支援パック」を利用している。
- ・「子ども読書支援パック」の中で、エプロンシアターは手軽にできて活用しているが、パネルシアターは、他のボランティアも自分も初めてであり、説明書だけでは子供たちに披露できるまでのレベルに達するのは難しいと感じている。できれば図書館職員が学校まで来て教えてもらえると良い。難しい場合は図書館まで出向いても良いので、30 分でも指導してもらいたい。図書館職員に尋ねたところ、そのようなサービスは行っていないとの返答であった。
- ・学校の図書事務員をしているが、特に高学年の男子では貸出が年間 0 冊という児童も多く、子どもの読書離れを切実に感じている。小学校で読書しない子は中学校でも読書しない。もっと本を身近に感じて欲しいと思っている。仙台市図書館で小学 4 年生を対象に行っているブックトークは申込制か。また、小学 1 年生への図書館パンフレット配布は、全員に配布しているのか。

(図書館から)

- ・パネルシアターの使い方についてだが、泉図書館子供図書室で年に数回ボランティア対象の講座を実施している。小道具を使った講座や読み聞かせの講座など年毎にテーマは異なるが、今後も引き続き実施する予定である。小道具の講座については、なお検討していきたい。
- ・ブックトークは小学4年生が在席する市立小学校全校で実施している。
- ・小学1年生への図書館パンフレット配布は、夏休み前に学校を通じて、市内の全小学校の小学1年生に配付している。

小学校

- ・司書教諭の免許があり、学級担任のほか図書主任もしている。配付資料で紹介されている学校連携事業（学校貸出、ブックトーク、新1年生向けパンフレットの配布）は全て活用している。
- ・学校貸出の「朝読書用パッケージ」は、数年前までは100冊でレベル分け等もなかったが、要望を受けて改善され、現在、低中高学年各40冊計120冊の貸出となっており利用しやすい。また、空きがあれば再度の貸出にも応じてもらっている。
- ・調べ学習に必要な資料は学校内での調達には限りがあるが、テーマに応じて図書館から図書資料を選定してもらって40冊貸出してもらえるので助かっている。
- ・ブックトークへの子供の反応も良い。図書も持参してもらえて、学校は返却するだけで良いのでありがたい。4年生以外の学年のブックトークはブックトークボランティア「ランプ」にお願いしている。教員間で、ブックトークで使用し借り受けた図書について、どこの図書館に返しても良ければ便利だという話が出ている。
- ・配付資料でも紹介されている除籍図書の有効活用は、隔年で機会が設けられており、難しい書類も不要で利用しやすい。学級文庫等に活用している。
- ・県内他地域の小学校の図書主任と情報交換する機会があるが、仙台市の学校連携の仕組みは、他地域の人からは驚かれるくらい進んでいる。

(図書館から)

- ・図書の返却については、貸し出した資料の確認作業が必要なため借り受けた図書館に返却してもらっている。

ブックトークボランティア

- ・図書館で養成されたブックトークボランティアで、市内小学校の4年生以外の学年を対象とした活動をしている。平成26年度は40件実施している。年々件数が増えてきている。
- ・学校への移動は、貸出用図書を30冊積んで個人の自家用車に分乗して向かうが、実施する件数が増え、主婦ボランティアでもあり限界を感じている。活動が曲がり角に来ているという意識があるが、なるべく長く活動を継続できるよう、今後とも、図書館と話し合っていきたい。
- ・子供に喜ばれることにやりがいを感じているものの、1回の実施につき自分たちでボランティア団体の会費の中から500円を交通費として支給しているが、事前準備のため選書等で図書館に2度ほど足を運ぶことになるため負担感がある。
- ・自分は養成講座の1期生で、今は5期生までいるが年々人数が減っており、養成講座のあり方や、いかにして続けていくかを話し合っていきたい。
- ・今後、更に依頼が増えた場合、学校が希望するシナリオが同じであれば同じ図書の貸出が増えることになるので懸念している。
- ・学校から「返却が大変なので」と断られ、紹介した本を置いてこないことがある。子供たちが手に取って読むことがないと思うと残念である。電話連絡すれば学校の近くの図書館で返却してもよいとのことだが、平日10時から17時までという限定された時間内に返却するのが大変なようであ

る。

- ・図書館職員には、快く準備作業等に当たってもらっており、その点は感謝している。
- ・住んでいる地域にもよるが、図書館がどこにあるかも知らず行ったこともない子供が多い。子供が本を読まなくなり、年齢が上がると差が開いていく。このような子供をどうやって図書館に足を向けさせるか。実際に育児中の人の声を拾うことで子供を図書館に向かわせることにつながるのではないか。

(図書館から)

- ・返却されたときに資料がそろっているか図書館職員が確認を行っている。17 時以降は職員体制が薄くなることから、返却は 17 時までとさせていただいている。返却場所については、学校の相談に応じているところである。
- ・育児中の母親の意見については、おはなし会等の行事の時にアンケートなどを通して聞いているところである。

個人利用者

- ・市民センターの地元学の講座に参加したのをきっかけとして図書館を利用し始めた。この 3 月を目途に地域誌の編纂に取り組んでおり、これまでは宮城野図書館の郷土資料のコーナーを利用していたが、もう少し深く掘り下げたいと思い市民図書館を利用するようになった。
- ・専門書について、例えばこの資料は県図書館にあるなどの情報を教えてもらったり、レファレンスの対応にも満足している。図書館に来るのが楽しみである。
- ・図書館への要望は特にない。自分の住む場所からは遠いということくらいである。
- ・作成中の地域誌は 100 ページ超の冊子で、地元の小学校の総合学習の副教材として平易版も作る予定である。子どもの関心を調べる機会などを通じて、文献の読み方を伝えるなどして図書館の利用にもつなげていきたい。

児童館

- ・小学校内にあるマイスクール児童館の図書コーナーで、図書館から貸し出される月 30 冊の団体貸出を利用している。子供たちは夕方遅くまでいるため、本を手にとることが多い。また、帰りの会の前には、子供たちの気持ちを落ち着かせるため、5～10 分の読み聞かせを行っている。
- ・児童館で毎月作成しているおたよりを、図書館内に置いてもらっている。
- ・市民図書館のおはなし会に参加した足で児童を迎えにきた保護者から、おはなし会で使われた本があるか聞かれることもあるが、なかなかリクエストに応えられない。
- ・児童館の中で貸出も行っており、よく利用されている。学校図書室や市民図書館の図書が混在して児童館に返却されることも多い。
- ・児童館の行事「図書館へ行こう」では、夏休み前後に 20 人程で図書館を訪れている。市民図書館が近くにあるのに、「分からない」、「利用しない」という子供もいる。
- ・団体貸出で 30 冊の図書を運搬するのが重いので、他の人の話にもあったように、マイクロバスなどで巡回してもらえると良い。児童のふれあいの機会にもなる。
- ・パネルシアターについても、説明書はあるが、中途半端な状態では子供達に見せられないため、簡単な学びの時間があれば良い。
- ・NHK 教育の朝の番組「てれび絵本」で取り上げられた本の問い合わせを受けることがよくある。図書館の展示の企画で「テレビに出た本」のコーナーというものがあれば良い。
- ・紙芝居の種類が少ないので増やして欲しい。「子ども読書支援パック」もひと通り借りているので、少しずつでもよいので内容を新しいものにして欲しい。
- ・除籍資料の有効活用は児童館でも利用することができるのか教えて欲しい。

(図書館から)

- ・「子ども読書支援パック」の内容は毎年少しずつ入れ替えている。また、常に貸出中であるとの意見を踏まえ、1パックの冊数を減らしてパック数を増やすことを考えている。
- ・除籍資料の有効活用については、児童館も利用できる。利用については、児童館が所在する区毎に分けて声がけしている。

個人利用者

- ・図書館の利用は個人利用のみである。本が好きなことと仕事での必要もあり、市民図書館が西公園にあった頃から利用している。以前は借りだけの利用だったが、この半年ほどは週3〜4日ほど、4階の資料コーナーを利用している。
- ・職員の対応も良く、気持ちよく利用している。自分でレファレンスを利用することはないが、聞えてくる他の利用者への回答などから充実していると感じる。
- ・10時の開館時に気持ちのよい挨拶をしてくれる。
- ・蔵書に不足を感じたことはない。国会図書館の資料も相互貸借で借りることができ、使いやすい。
- ・人気の図書の予約は1年半待ちということもあり、対策が必要である。
- ・閲覧席が少なく、11時には満席になる。工夫して閲覧スペースを増やすことができないか。
- ・3階、4階とも、照明が暗い。
- ・本日の配布資料の説明で、要望として考えていたサービスや行事が既にあることが分かった。なぜ必要とする人に情報が届いていないのか、情報発信の方法が拙劣なのではないか。待っているだけではなく、回数ややり方を考え、積極的に外に出すことが必要である。
- ・アーカイブを市民が活用できるようにするには、図書館が外に出て市民にアピールすることが求められる。利用していない人に図書館が持つ知的財産をどう届けるか、色々な活動をしていくことが必要ではないか。
- ・国連防災会議に向けた展示や1階オープンスクエアのスクエア図書館について、コーナーに資料を展示するだけでなく、一言コメントがあれば、手に取るアクションにつながるのではないか。書店では行っており、図書館でもするべきと考える。

(図書館から)

- ・図書館は本を借りるところと考えている利用者も多く、利用者でもレファレンスやデータベースサービス等を知らない人もいる。図書館としてもPR不足を感じており、今後発信の仕方を検討していく。皆さんから良いアイデアがあればいただきたい。これまでも毎月、市政だよりにお知らせ記事を掲載してきたが、最近は、新聞に掲載されることも増えてきた。
- ・課題を抱えた市民へのサービスも重要と考えており、市民の身近な課題の解決に結びつく資料に触れる機会が増えるよう、仮設住宅なども移動図書館で巡回している。今まで図書館は、利用されるのを待つ姿勢であったが、少しずつ外に出てPRしていきたい。
- ・展示資料に対する一言コメントに関しては、榴岡図書館で資料のコメントを表示しているほか、利用者がおすすめする本を募集し冊子にまとめて市民に配付する取り組みを行っている。今後も工夫していきたい。